

イジリ カヨコ

井尻 香代子

文化学部・教授

文学修士／神戸市外国語大学

主な研究業績

- 「ラテンアメリカ文学におけるエッセイ『アリエル』をめぐって」『京都産業大学論集』『人文科学系列』第34号 2006
- 『スペイン内戦とガルシア・ロルカ』南雲堂フェニックス 2007
- 「ガルシア・ロルカと俳句ー『組曲』をめぐって」『京都産業大学論集』『人文科学系列』第38・39号 2008
- 「アルゼンチンにおける日本の詩歌の受容について」『京都産業大学論集』『人文科学系列』第44号 2011
- 「国際ハイクと季語ーアルゼンチン・ハイクをめぐってー」『京都産業大学論集』『人文科学系列』第45号 2012
- 「スペイン語ハイクの韻律ーアルゼンチン・ハイクの音声分析からー」『京都産業大学論集』『人文科学系列』第46号 2013
- 「俳句の受容による価値観の変化」『京都産業大学論集』『人文科学系列』第47号 2014

研究テーマ

スペイン語圏における日本文学の受容に関する研究

概要

本研究テーマの目的は、スペイン語圏における日本文学の受容の経過と現在の状況の調査および分析である。とりわけ、1990年以降、出版、研究、コンクール等の活動が増加しているスペイン語ハイクに着目し、その生成のメカニズムおよび文学、文化への影響について考察する。日本文学のスペイン語圏への影響は19世紀末から始まっている。その経路は二つある。ヨーロッパのジャポニズムとラテンアメリカ各国へ渡った日本人移民の文化活動である。これらの経路を介して、アルゼンチンにおいては伝統的なジャンルから現代文学まで、広範な受容が行われてきた。そして現在、アルゼンチン・ハイクの創造という新しい段階にいたっている。

しかし、ラテンアメリカにおける日本文学の受容については、スペインの文芸や出版活動を視野に入れて進める必要があり、書籍やインターネットを通じたスペイン語圏全域にわたる交流状況の把握に向けて調査を進めている。アルゼンチンにおける日本の詩歌の受容については、そのプロセス、トピック、韻律の各側面から一定の研究成果を得られたので、現在、アルゼンチンと並ぶスペイン語ハイク文芸活動の中心として、スペインでの現地調査と資料集を進めている。

応用分野

国際文化交流

俳句を通じて、日本、スペイン、ラテンアメリカ間の相互理解と交流を促進できる。